

# こども消費生活センター活動報告 第2回生産者訪問

2024. 9. 14(土)

oryza-farm 株式会社

『こども消費生活センターは、

「つくり手」(生産者)と「つかい手」(消費者)をつなぎます』

9月14日(土)にoryza-farm 株式会社(青南町)の代表松下明弘さんを訪問し、環境に配慮した有機農業についてお話を伺いました。

松下さんは、購入者へ出荷するお米を育てる為の田んぼのほかに、国内外から集めた140種類もの品種のお米を栽培する“趣味の田んぼ”を持っています。この田んぼには、赤色の稻や、膝くらいの高さしかない稻が植わっており、初めて見る稻の多さに子どもたちは驚いた様子でした。また、「珍しい品種の種を手に入れては、研究のために育てている。」というお話から、米作りへの熱意を感じました。

さらに、本来なら廃棄になってしまう魚の骨や頭、おからや玄米茶がらを発酵させた自家製の有機肥料を使用して米作りをしており、人にも環境にも配慮した有機農業がエシカル消費につながっていることを学びました。

お米を収穫する機械や、乾燥する機械を見学すると、

「乗ってみたい！」など農業に興味を示す声が聞かれました。



## ○サポーターが感じた「つくり手」(松下さん)の思い

- ・人、生物、稻に優しい有機肥料を使って、環境問題についても考えている。
- ・ていねいに育てたお米を、おいしく、笑顔でみんなに届けたい。

## ○サポーターが「つくり手」に伝えたいこと

- ・お友達にもお米農家さんの苦労や、工夫を知ってもらいたいと思った。
- ・まだ出会ったことのないお米の品種に出会えると良いですね。
- ・米作りの大変さを知ったので、今までよりも大切に食べたいと思った。

## ☆アクション宣言☆

### ～消費者としてのこれからの行動～

- ・食品ロスにならないようにお米を大切に食べたい。他の食べ物も同じだと思った。
- ・松下さんが捨てるはずだったものを肥料に使っているように、自分もリサイクルしたい。
- ・工夫や苦労がつまったお米を感謝をこめて食べる。
- ・有機肥料が使われたものや、無農薬のものを買ってみたい。

